

一般社団法人 日本原子力学会
第 63 回 標準委員会 (SC) 議事録

- 1 日時 2015 年 12 月 11 日 (金) 13:30~19:15
- 2 場所 5 東洋海事ビル D 会議室
- 3 出席者 (敬称略) (開始時)
 - (出席委員) 関村委員長, 有富副委員長, 越塚幹事補佐, 青柳 (途中退室), 井口, 伊藤, 上田, 大鳥, 岡本 (太), 河井, 清水, 高橋, 谷本, 津山, 鶴来, 中井, 西野, 萩原, 藤森, 渡邊 (20 名)
 - (フェロー委員) 成合, 宮野 (2 名)
 - (代理出席) 波木井順一(東京電力/姉川), 成宮祥介(関西電力/山口), 西村洋一(原子力安全推進協会/岡本(孝)) (3 名)
 - (欠席委員) 小原, 寺井, 本間, 吉原 (4 名)
 - (常時参加者) 杉山 (1 名)
 - (欠席常時参加者) 鈴木 (1 名)
 - (説明者) 【シミュレーションの信頼性分科会】中田主査, 【レベル 1 PRA 分科会】鎌田幹事, 【レベル 2 PRA 分科会】成宮副主査, 中村幹事, 【リサイクル燃料貯蔵分科会】清水委員, 【リスク専門部会】野村常時参加者, 【LLW 埋設後管理分科会】吉原幹事, 【原子力安全検討会】村松委員, 【LLW 処分安全評価分科会】山本幹事, 【レベル 3 PRA 分科会】小倉副主査, 成宮幹事, 高原常時参加者 (延べ 13 名)
 - (オブザーバ) 都筑康男 (原子力安全推進協会), 仙波毅 (原子力安全推進協会), 菅原 彬 (3 名)
 - (事務局) 中越, 谷井 (2 名)
- 4 配布資料:
 - SC63-0 第 63 回標準委員会議事次第 (案)
 - SC63-1 第 62 回標準委員会議事録 (案)
 - SC63-2-1 人事について (標準委員会)
 - SC63-2-2 人事について (専門部会)
 - SC63-3-1 “シミュレーションの信頼性確保に関するガイドライン 201X” 公衆審査意見対応への標準委員会意見募集結果
 - SC63-3-2 “シミュレーションの信頼性確保に関するガイドライン 201X” 公衆審査意見対応への標準委員会意見に対する対応
 - SC63-3-3 “シミュレーションの信頼性確保に関するガイドライン 201X” 公衆審査意見提出者への回答に対する意見提出者からの回答結果
 - SC63-4 “シミュレーションの信頼性確保に関するガイドライン 201X” 修正
 - SC63-5-1 “原子力発電所の確率論的リスク評価用のパラメータ推定に関する実施基準: 201X” 標準委員会決議投票結果
 - SC63-5-2 PRA 用パラメータ標準改定案 標準委員会コメント一覧表

- SC63-5-3 “原子力発電所の確率論的リスク評価用のパラメータ推定に関する実施基準：201X”（コメント反映抜粋版）
- SC63-6-1 “原子力発電所の出力運転状態を対象とした確率論的リスク評価に関する実施基準（レベル 2PRA 編：201X “標準委員会決議投票結果”）
- SC63-6-2 “原子力発電所の出力運転状態を対象とした確率論的リスク評価に関する実施基準（レベル 2PRA 編：201X “標準委員会決議投票に対する意見対応”）
- SC63-7-1 「原子力安全の基本的考え方について第 I 編 別冊 2 深層防護の実装の考え方」（案）」の標準委員会意見募集結果
- SC63-7-2 「原子力安全の基本的考え方について第 I 編 別冊 2 深層防護の実装の考え方」（案）」の標準委員会意見対応
- SC63-8 標準委員会・用語集(中間報告)
- SC63-9-1 誤記対応における『重要度高の標準の選定』及び『緊急度の高い標準の誤記確認作業』の実施について（依頼）
- SC63-9-2-1 誤記対応における『重要度高の標準の選定』及び『緊急度の高い標準の誤記確認作業』に関する結果(リスク専門部会)
- SC63-9-2-2 誤記対応における『重要度高の標準の選定』及び『緊急度の高い標準の誤記確認作業』に関する結果(システム安全専門部会)
- SC63-9-2-3 誤記対応における『重要度高の標準の選定』及び『緊急度の高い標準の誤記確認作業』に関する結果(基盤応用・廃炉技術専門部会)
- SC63-10 ASME/ANS JIWG 設置にかかる対応について
- SC63-12-1 「外部ハザードに対するリスク評価手法に関する手引き」の標準委員会意見募集結果
- SC63-12-2 「外部ハザードに対するリスク評価手法に関する手引き」の標準委員会意見対応
- SC63-13-1 「低レベル放射性廃棄物の埋設地に係る埋戻し方法及び施設の管理方法」中間報告案の標準委員会意見募集結果
- SC63-13-2 「低レベル放射性廃棄物の埋設地に係る埋戻し方法及び施設の管理方法」中間報告案の標準委員会意見募集結果についての標準委員会意見対応
- SC63-14 「リスク評価の理解のために」への標準委員会コメントの対応について
- SC63-15-1 “継続的な安全性向上対策採用の考え方について(経過報告)”の標準委員会意見募集結果
- SC63-15-2 継続的な安全性向上対策採用の考え方について(経過報告)”の標準委員会意見への対応、及び最終報告
- SC63-16 “浅地中処分（ピット処分&トレンチ処分）の安全評価手法：201X” 統合標準改定案の中間報告
- SC63-17-1 標準活動基本戦略タスク 2015 年度第三回 議事録(案)20151204
- SC63-17-2 標準委員会 2015 年度活動中間報告および 2016 年度活動計画(報告用)
- SC63-18-1 標準活動基本戦略タスク及び 3 学協会での学協会規格整備計画の検討状況(その 16)
- SC63-18-2 学協会規格の体系化検討(中間報告)
- SC63-19-1 標準策定 5 カ年計画の作成依頼
- SC63-19-2-1 標準策定スケジュール(システム安全専門部会)

- SC63-19-2-2 標準策定スケジュール(基盤応用・廃炉技術専門部会)
- SC63-20 原子力安全検討会の実施状況について
- SC63-21 専門部会活動状況報告
- SC63-22 標準委員会の活動状況
- SC63-23-1 「原子力発電所の確率論的リスク評価に関する実施基準（レベル 3PRA 編）：201X」改定に関する中間報告
- SC63-23-2 「原子力発電所の確率論的リスク評価に関する実施基準（レベル 3PRA 編）：201X」改定 新旧比較表
- SC63-24 “使用済燃料中間貯蔵施設用金属キャスクの安全設計及び検査基準 2010” 改定要否検討結果
- SC63-25 “使用済燃料中間貯蔵施設用コンクリートキャスク及びキャニスタ詰替装置の安全設計及び検査基準 2007” 改定要否検討結果
- SC63-26 2015 年度活動計画（工程）20151204
- SC63-27 「標準作成手引き：2013」の見直しについて（案）
- SC63-28 出欠管理表
- SC63-29 学会事故調・提言の実施状況調査の依頼について
- SC63-30 「2016 年春の年会」企画セッション提案書

参考資料

- SC63-参考 1 標準委員会委員名簿
- SC63-参考 2 標準委員会開催スケジュールについて（案）

5 議事内容

事務局から開始の時点で委員(フェロー委員含め)29名中、25名の出席があり、委員会成立に必要な委員数(20名以上)を満足している旨、報告された。

(1) 前回議事録の確認 (SC63-1)

前回議事録(案)について配付されていた案で承認された。

(2) 人事について (SC63-2-1, SC63-2-2)

事務局配付資料の SC63-2-1, SC63-2-2 に基づいて、標準委員会、専門部会の人事について以下の通り審議を行った。

なお、人事案件は、対象者の退席を得て、委員のみの自由討議を経て、審議し確認、決議又は承認の手続きとなる。

a. 標準委員会人事

標準委員会での下記の確認、決議又は承認事項について、審議の提案があった。

- ① 委員退任の確認
喜多尾 憲助 (ISO/TC85・IEC/TC45 国内委員会)
- ② 委員選任の決議
なし
- ③ 委員再任の承認
姉川 尚史 (東京電力), 井口 哲夫 (名古屋大学)
- ④ 委員の所属変更の確認

青柳 春樹（日本原燃）→（（元）日本原燃）（2015.06.30 退社に伴う）

⑤ 常時参加者登録解除の確認

伊藤 卓也（原子燃料工業）

⑥ 常時参加者登録の承認

鈴木 理一郎（原子燃料工業）

審議の結果、提案は確認又は承認された。

b. リスク専門部会人事

なし

c. システム安全専門部会人事

部会での下記の確認事項について、審議の提案があった。

① 委員の所属変更の確認

阿部 弘亨 東北大学→東京大学

審議の結果、提案は確認された。

d. 基盤応用・廃炉技術専門部会人事

なし

e. 原子燃料サイクル専門部会人事

部会での下記の確認又は決議事項について、審議の提案があった。

① 委員選任の承認

白井 茂明（リサイクル燃料貯蔵分科会代表者として）

② 委員再任の確認

平井 輝幸（電気事業連合会）

審議の結果、提案は承認又は確認された。

(3) 【報告・審議】「原子力発電所の確率論的リスク評価用のパラメータ推定に関する実施基準：201X」改定の標準委員会決議投票結果について（SC63-5-1，SC63-5-2，SC63-5-3）

事務局から事務局配付資料の SC63-5-1 に基づいて，“原子力発電所の確率論的リスク評価用のパラメータ推定に関する実施基準：201X”の標準委員会決議投票結果、可決されたことが報告された。引き続き、レベル1 PRA 分科会の鎌田幹事から、事務局配付資料の SC63-5-2 に基づいて、決議投票で出された意見への対応について報告があった。

質疑等は以下のとおり。

C. 附属書（参考）の記載で本文規定化が可能な要件については、検討の上、積極的に取り込んで欲しい。

審議の結果、公衆審査へ移行することが決議された。

(4) 【報告・審議】「原子力発電所の出力運転状態を対象とした確率論的安全評価に関する実施基準（レベル2 PRA 編）：201X」改定の標準委員会決議投票結果について（SC63-6-1，SC63-6-2）

事務局から事務局配付資料の SC62-6-1 に基づいて，“原子力発電所の出力運転状態を対象とした確率論的安全評価に関する実施基準（レベル2 PRA 編）：201X”の標準委員会決議投票結果、可決されたことが報告された。引き続き、レベル2 PRA 分科会の成宮副主査、中村幹事から、事務局配付資料の SC62-6-2 に基づいて、決議投票で出された意見への対応について報告があった。

質疑等は以下のとおり。

- C. コメント No. 2 の回答の主旨は幅広く書いているため対応できるということだと理解した。コメントしたような内容を解析実施者が十分理解することが重要であると考える。
- A. 拝承
- C. 附属書 C にあるから本文への追加はよいということだが、修正が容易ならば追加してはどうか（まかせるが）。
- A. 本文の中で、「レベル 1 のインターフェイスは附属書 C に記載する」と記載し、位置づけを明確にしたので現状案のままをしたい。
審議の結果、公衆審査へ移行することが決議された。

- (5) 【報告・審議】「シミュレーションの信頼性確保に関するガイドライン 201X」公衆審査意見対応の標準委員会決議投票結果及び公衆審査意見提出者への回答に対する意見提出者からの回答結果（SC63-3-1, SC63-3-2, SC63-3-2）

事務局から事務局配付資料の SC63-3-1 に基づいて、“シミュレーションの信頼性確保に関するガイドライン 201X” 公衆審査意見対応について標準委員会決議投票結果、可決されたことが報告された。引き続き、シミュレーションの信頼性分科会の中田主査から事務局配付資料の SC63-3-2 に基づき、決議投票で出された意見への対応について報告があった。更に、事務局から SC63-3-3 に基づき、標準委員会からの公衆審査意見提出者への回答及び公衆審査意見提出者からの標準委員会への回答について報告があった。

質疑等は以下のとおり。

- C. 公衆審査意見提出者への回答の中に一部記載されているように、今回のガイドライン策定時に公衆審査意見提出者からのコメントに対応できなかったものについては、次回の改訂にてその対応を行う。

審議の結果、本標準を制定することが決議された。

- (6) 【報告・審議】「シミュレーションの信頼性確保に関するガイドライン 201X」修正について（SC63-6-4）

シミュレーションの信頼性分科会の中田主査から SC62-6-4 に基づき、公衆審査対応終了後に明らかとなった誤字修正について報告があった。

審議の結果、本修正は編集上の修正であることが決議された。

- (7) 【報告・審議】技術レポート“原子力安全の基本的考え方について第 I 編 別冊 2 深層防護の実装の考え方”（最終報告案）の標準委員会意見募集結果と対応について（SC63-7-1, SC63-7-2）

事務局から事務局配付資料の SC63-7-1 に基づいて、技術レポート“原子力安全の基本的考え方について第 I 編 別冊 2 深層防護の実装の考え方”（最終報告案）の標準委員会意見募集結果について報告があった。引き続き、深層防護WS 実行委員会の河井幹事から事務局配付資料の SC63-7-2 に基づいて、意見募集で出された意見への対応について報告があった。

審議の結果、コメント対応が了承され、本技術レポートを制定することが決議された。

- (8) 【報告】「標準委員会・用語集」について(中間報告) (SC63-8)
標準活動基本戦略タスクの河井幹事から事務局配付資料の SC63-8 に基づいて、“標準委員会・用語集”の検討状況について(中間報告)があった。本中間報告内容について、作成方針(再処理含めるか、改定頻度など)も含めて、委員会サイトを利用して30日間程度の意見募集を行うこととなった。
- (9) 【報告・審議】“使用済燃料中間貯蔵施設用金属キャスクの安全設計及び検査基準2010”改定要否検討結果について(SC63-25)
リサイクル燃料貯蔵分科会の清水委員から事務局配付資料の SC63-25 に基づき、“使用済燃料中間貯蔵施設用金属キャスクの安全設計及び検査基準2010”改定要否検討結果について報告があり、承認された。
- (10) 【報告・審議】“使用済燃料中間貯蔵施設用コンクリートキャスク及びキャニスタ詰替装置の安全設計及び検査基準2007”改定要否検討結果について(SC63-24)
リサイクル燃料貯蔵分科会の清水委員から事務局配付資料の SC63-24 に基づき、“使用済燃料中間貯蔵施設用コンクリートキャスク及びキャニスタ詰替装置の安全設計及び検査基準2007”改定要否検討結果について報告があり、承認された。
- (11) 【報告】ASME/ANS JIWG 設置にかかる対応について(SC63-10)
リスク専門部会の成宮幹事から事務局配付資料の SC63-10 に基づき、ASME/ANS JIWG 設置にかかる対応について報告があった。
質疑等は以下のとおり。
Q: 先方のルールで先方のもになってしまうのをどう扱うか。影響力に関して、投票の結果は全て参考扱いであり、投票権はあっても影響力が持てないのではないかと。そういったデメリットもあることに留意すべきである。
A: ご指摘いただいた点に留意して進めていきたい。
Q: 丸々ASME/ANSの標準に取り込まれた場合、原子力学会標準の意味合いはどうなってくるのか。先方は日本のデータ、日本の資源を持って地震PRAを高度化したという意図があるだろうが。
A: 地震PRAの規定部分はそれほど詳しい数字等は書いていないが、附属書参考には事例も書いてあるので、どこまで出すかをリスク専門部会で十分議論する。
C: 出した情報は全て向こうのものになるということで、日本で利用しようとする場合に、向こうの著作物になってしまうため使いづらいついということにならないかについて、注意が必要である。戦略を持って臨む事。
C: メリットを得るために、標準委員会として費用を若干負担するというところをご理解いただきたい。
- (12) 【報告・審議】標準活動基本戦略タスク 2015年度第三回 議事録(案)について(SC63-17-1, SC63-17-2)
標準活動基本戦略タスクの伊藤副主査から事務局配付資料の SC63-17-1, SC63-17-2 に基づき、標準活動基本戦略タスクの状況及び「2015年度活動中間報告及び2016年度活動計画」について報告があり、同タスクから標準委員会への報告事項は承認された。
- (13) 【報告・審議】2015年度活動全体計画(案)(年間工程表)について(SC63-26)
標準活動基本戦略タスクの伊藤副主査から事務局配付資料の SC63-26 に基づき、

2015 年度活動全体計画（案）（年間工程表）について報告があり、承認された。

- (14) 【報告・審議】「標準作成手引き：2013」の見直しについて（案）（SC63-27）
事務局から事務局配付資料の SC63-27 に基づき、「標準作成手引き：2013」の見直しについて（案）について報告があり、承認された。
- (15) 【報告】「外部ハザードに対するリスク評価手法に関する手引き」の標準委員会意見募集結果について（SC63-12-1, SC63-12-2）
事務局から事務局配付資料の SC63-12-1 に基づいて、技術レポート“外部ハザードに対するリスク評価手法に関する手引き”の標準委員会意見募集結果について報告があった。引き続き、リスク専門部会の成宮幹事、野村常時参加者から事務局配付資料の SC63-12-2 に基づき、意見募集で出された意見への対応について報告があり、本技術レポートを発行し、学会 HP 上で公開することが承認された。
- 質疑等は以下のとおり。
- Q：今後評価事例をまとめていく予定か。
A：今のところその予定はない。事例集があった方がよいということであれば今後作成も検討する。
- C：実際にどこかに事例が纏められているというわけではないのであれば、今後ご検討をお願いしたい。
- Q：参考文献の読み込み位置について、リスク評価手法名についているが、外部ハザードに対するリスク評価の記載については、リスク専門部会で検討したオリジナルの内容ではないのか。
A：ご指摘のとおりである。参考文献の読み込み位置を、【手法の概要】に変更する。
- Q：本資料を作成するにあたっては、何を参考としたか分かるとユーザーが利用しやすいのではないか。
A：JIS Q31010 や、参考文献として記載している文献の他、書籍やインターネット上の資料等も参考に作成している。一方で、代表的な文献として記載するとすると、ある書籍は記載されて、別の書籍はなぜ記載されないのかなどの仕切りが問題となるため、参考文献は JIS 等に限定した。
- Q：“外部ハザード評価”という言葉と“外部ハザードに対するリスク評価”とは同じ意味で用いているのか。
A：使い分けはしていない。“外部ハザードに対するリスク評価”に記載を統一する。
- Q：リスク専門部会として、事例の取扱い、改定の考え方や活用方法などについて議論しているのであれば、情報を共有していただきたい。
A：事例を作るかどうかについては議論をしたが、多数ある外部ハザードに対して、評価の目的によってアプローチが異なってくる中で、一つ一つ例を作っていく必要はないのではないかという意見が有り、今回の作業からは外した。
- Q：この技術レポートは HP 上で公開し、皆様に広く利用していただくのか、それとも販売するのか。
A：学会 HP 上で、無料で公開し、利用していただいた方がよいと考えている。
C：リスク専門部会として今後の改定方針を明確にし、事例を含め引き続きご検討

いただきたくことを前提にして、本レポートを発行することとする。

(16) 【報告】「低レベル放射性廃棄物の埋設地に係る埋戻し方法及び施設の管理方法」
中間報告案の標準委員会意見募集結果について (SC63-13-1, SC63-13-2)

事務局から事務局配付資料の SC63-13-1 に基づいて、“低レベル放射性廃棄物の埋設地に係る埋戻し方法及び施設の管理方法”の標準委員会意見募集結果について報告があった。引き続き、LLW埋設後管理分科会の吉原幹事から事務局配付資料の SC63-13-2 に基づき、意見募集で出された意見への対応について報告があった。

質疑等は以下のとおり。

C:「附属書Aに記載してある現行法令と標準の関係は、附属書から解説に移動しないということだが、解説に書くことが決まりになっている以上移動すべきである。」

C:「それは間違いである。そもそも解説は標準を構成するものではなく、解説がなくても標準として成立しなければならない。これまでの標準はそのようにして策定されてきた。したがって、現行法令と標準の関係のような重要事項を解説に移す必要はない。」

C:「解説に書くべきか否かについて、この場で議論すると時間を要すると思われるので、この問題は標準タスクで改めて検討していただくこととする。」

A: 拝承

(17) 【報告】「リスク評価の理解のために」の標準委員会コメント対応結果について (SC63-14)

原子力安全検討会の村松委員から事務局配付資料の SC63-14 に基づき、技術レポート“リスク評価の理解のために”の標準委員会コメント対応結果について報告があり、本技術レポートを発行することが承認された。

質疑等は以下のとおり。

C:「PRAに関するいくつかの課題に関する検討」は、「関する」がダブっている。

A:「PRAのいくつかの課題に関する検討」に修正する。

C: PRAを「使い込む」としたところと PRAを「使う」としたところがあるが、統一すべきではないか。

A: 前者は、課題への対応は継続的に行うという意味であり、このままとしたい。

C: 意図がある表現であれば、了解。

C: これは今後改善していく予定か?

A: 講習会などを行い、反応を見ながら改良していきたい。

C: これで発行可能な状態になったと考えて良いか?

A: 許可を頂ければそうさせて頂きたい。

C: この解説書は、事業者等で教科書として役立つと思う。また大学院等で使いたいという声もあるので、まずは発刊して使ってもらい、今後も、継続的に改善していくこととするのがよいと考える。また、学会としても、リスク評価の解説書を増やしていくのが有益だと思うので、継続的な拡充も検討して頂きたい。

以上の結果、挙手にて、発刊が承認された。

(18) 【報告】技術レポート“継続的な安全性向上対策採用の考え方について”の経過報告への標準委員会意見募集結果と対応、及び最終報告案について (SC63-15-1, SC63-15-2)

事務局から事務局配付資料の SC63-15-1 に基づいて、技術レポート“継続的な安

全性向上対策採用の考え方について”の経過報告への標準委員会意見募集結果について報告があった。引き続き、安全性向上対策採用の考え方に関するタスクの河井幹事から事務局配付資料の SC63-15-2 に基づき、意見募集で出された意見への対応及び最終報告案について報告があった。コメント対応は了承されたが、報告書で挙げている課題に対する取組み方をもっと詰めるべきであるとの意見があった。委員会サイトを利用した 30 日間程度の意見募集を行うこととなった。

(19) 【中間報告】“浅地中処分（ピット処分&トレンチ処分）の安全評価手法：201X” 統合標準改定案の中間報告について（SC63-16）

LLW 処分安全評価分科会の山本幹事から事務局配付資料の SC63-16 に基づいて、“浅地中処分（ピット処分&トレンチ処分）の安全評価手法：201X” 統合標準改定案について中間報告があり、委員会サイトを利用した 30 日間の意見募集を行うこととなった。

質疑等は以下のとおり。

C：ピット処分の人為過程による被ばく（偶発的に地下にある放射性物質に接近した公衆の被ばく）を想定する時期はいつ頃を想定しているのか。

A：管理期間終了後である。

C/Q：原子力規制委員会において検討されている“余裕深度処分（中深度処分）”の規制期間終了後の国等の関与の具体的なあり方次第で、特にピット処分のシナリオや評価の考え方などに影響する可能性があるのではないかと。

A：そのような可能性については認識しており、検討状況については注視している。

(20) 【中間報告】「原子力発電所の確率論的リスク評価に関する実施基準（レベル 3PRA 編：201X）中間報告（SC63-23-1, SC63-23-2）

レベル 3PRA 分科会の小倉副主査、成宮幹事、高原常時参加者から事務局配付資料の SC63-23-1, SC63-23-2 に基づいて、“原子力発電所の確率論的リスク評価に関する実施基準（レベル 3PRA 編：201X）”について中間報告があり、委員会サイトを利用した 30 日間の意見募集を行うこととなった。

質疑等は以下のとおり。

Q：経済影響評価へ適用範囲を広げるにあたり、L2PRA とのつながりを含めて検討するのか。

A：見直しは考えていない。L2PRA からの入力条件はソースタームである。

Q：経済影響評価の費用に、自治体や自衛隊のコストも入るのか。

A：入れることを考えていない。

Q：経済影響の項目をどう決定しているのか。リファレンスとしているものはあるのか。

A：L3PRA で評価した項目を経済影響評価する方針である。

Q：NRC の Containment protection release and reduction とは項目がどう違うのか。

A：当該文献の項目については調査する。

(21) 【報告】誤記対応における『重要度高の標準の選定』及び『緊急度の高い標準の誤記確認作業』について（SC63-9-1, SC63-9-2-1, SC63-9-2-2, SC63-9-2-3）

標準活動基本戦略タスクの高橋委員から事務局配付資料の SC63-9-1, SC63-9-2-1, SC63-9-2-2, SC63-9-2-3 に基づいて、誤記対応における“重要度高の標準の選定”及び“緊急度の高い標準の誤記確認作業”について報告があった。

作業状況として、前回の標準委員会での決定を受けて、現在、各専門部会におい

て、誤記チェックの対象となる標準リストの作成とチェック作業を実施中の状況について報告した。今後の対応予定について、次回3月の標準委員会で重要度高の標準の選定について各専門部会から提案頂き、標準委員会で指定する予定であること、また、重要度高と緊急度高のチェックについては、6月の標準委員会でチェック結果を説明予定であるとの状況を確認いただいた。

(2 2) 【報告】標準活動基本戦略タスク及び3学協会での学協会規格整備計画の検討状況について(SC63-18-1, SC63-18-2)

標準活動基本戦略タスクの河井幹事から事務局配付資料の SC63-18-1 及び SC63-18-2、に基づいて、標準活動基本戦略タスク及び3学協会での学協会規格整備計画の検討状況、及び標準活動基本戦略タスクでの学協会規格の体系化の検討状況について報告があり、了承された。

(2 3) 【報告】標準策定5カ年計画の策定依頼について(SC63-19-1, SC63-19-2-1, SC63-19-2-2)

標準活動基本戦略タスクの河井幹事から事務局配付資料の SC63-19-1, SC63-19-2-1, SC63-19-2-2 に基づいて、標準策定5カ年計画の策定依頼について報告があり、了承された。

(2 4) 【報告】原子力安全検討会の実施状況について (SC63-20)

原子力安全検討会の成宮幹事から事務局配付資料の SC63-20 に基づいて、原子力安全検討会の実施状況について報告があった。また、“原子力安全の基本的考え方について 第Ⅱ篇 原子力安全確保のための基本的な技術要件と規格基準の体系化の課題について”の転載許諾手続きに係る修正の報告があった。修正内容は転載した元文献に係る修正であり、技術レポートの主旨には変更はないことから改めて意見募集は行わず、発行の手続きを進めることとなった。

質疑等は以下のとおり。

Q: 発刊に移りたいと思うが、修正内容について改めて意見募集する必要があるか。

A: 報告書の内容についてはこれまで散々議論してきた。報告書の主旨は変わっていないので改めて意見募集する必要はない。

A: 今回の修正は参考としている文献の修正であり報告だけでよいと考えている。制定自体は一年前に終わっている。

C: 標準委員会としては、安全検討会から修正についての報告を受けたということで、発刊に向けて手続きを進めていただきたい。

(2 5) 【報告】学会事故調・提言の実施状況調査の依頼について (SC63-29)

宮野フェロー委員から事務局配付資料の SC63-29 に基づいて、学会事故調・提言の実施状況調査の依頼について報告があった。

6 その他

次回は2016年3月11日(金)13:30から

以上